

恩賜賞

林 良博

功 績 概 要

氏は、昭和44年東京大学卒業後、同49年に同大学大学院農学系研究科博士課程を修了し、同大学に奉職した。同大学教授として専門分野の獣医解剖学にとどまらず、同大学農学部長や副学長を歴任し、教育・研究及び大学運営に尽力した。

また、内閣府の「立ち上がる農山漁村」有識者会議の座長や農林水産省の「食料・農業・農村政策審議会」会長、「ディスカバー農山漁村の宝」有識者懇談会座長を務めるなど国の農業・農村政策の企画立案・推進に貢献した。

さらに、自然史・科学技術史に関する国立科学博物館長や皇室との関係が深い山階鳥類研究所長を務めるなど、国の科学技術・文化振興に貢献した。

蚕糸関係では、農林水産省が平成18年度に開催した「今後の蚕糸業のあり方に関する検討会」の座長として、同19年3月に最終報告書を取りまとめ、川上から川下まで連携した「蚕糸・絹業提携グループ」を推進する方向を提示するとともに、事業実施に当たって事業推進委員会の主査として貢献した。また、(公財)農林漁業振興会が主催する農林水産祭中央審査委員長として蚕糸関係の出品実現に向けて同25年の「蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール」の創設に助言した。さらに、同26年に国立科学博物館において「ヒカリ展」を開催し、遺伝子組換えカイコと光る繭の展示に尽力した。

平成23年から財団法人大日本蚕糸会の評議員として、その後同25年から同理事として、大日本蚕糸会の運営に貢献している。

令和6年度及び同7年度には、大日本蚕糸会が農林水産省補助事業を受けて設置した「持続的養蚕業確立検討会」の座長として、我が国養蚕業が将来にわたって持続できる方策の検討を牽引している。

以上のように氏は、非常に高度で幅広い経歴を背景に、蚕糸業振興施策の企画立案と推進を通じて、我が国の蚕糸絹業の振興発展、蚕糸絹文化の向上に貢献し、その功績が特に偉大と認められる。